

令和8年度JDAT標準研修会（地域開催）の演習に関するFAQ（令和8年3月）

質問番号	内容	質問	回答
1	演習全体について	演習における、初期(平成30年度～)の「体制研修会」との相違点はなにか。	現在の「JDAT標準研修会」は、初期の「体制研修会」で行っていた「午前」の演習部分を整理したものであり、当時の「午後」の演習部分は、現在の「JDATアドバンス研修会」に引き継いでいる。
2		今年度のプログラムにあたり、昨年度より更新した点はなにか。	主に下記3点。 1) 令和7年7月1日の災害関連法規の改定に基づいた情報提供など 2) 令和7年3月の通知でD24Hを保健医療福祉チームも活用するようにと記載されたことに伴い、D24Hと整合性を合わせたアセスメントシートの改定など 3) 記録用紙がわかりにくいという意見を踏まえた、記録用紙の説明部分の変更
3	演習内容	講師独自の演習内容で演習を行うことは可能か。	認められない。中央開催と同じ素材を日本歯科医師会から提供し、同じ演習をしていただく形になる。なお、説明において、講師独自の追加が加わることは差し支えない。
4	演習補助者	過年度のJDAT標準研修会(旧災害歯科保健医療体制研修会)の演習補助者を教えてほしい。	日本歯科医師会地域保健課(chiiki-info@jda.or.jp)に問い合わせること。
5	演習事前打ち合わせ	演習事前打ち合わせの開催時期や開催方法について教えてほしい。また、事務局も出席すべきか。	開催時期は研修会開催日の3～4週間前が望ましい。開催方法については原則オンライン開催となる。また、研修会当日の事務局担当者も出席すること。
6	スケジュールや進行について	日歯の例に、「総評・質疑」(主催者・講師)の後、「事務連絡・閉会」(主催者)となっているが、この順番は変えても差し支えないか。	差し支えない。(例:「質疑」「総評・閉会」「事務連絡」、「質疑」「事務連絡」「総評・閉会」の順)
7		演習時間のコントロールは、講師が行うのか。	演習開始時に講師から時間を設定し、演習補助者に演習開始をお願いする。演習時間の延長・短縮は講師の裁量に委ねるが、その分時間を調整しなければならないため、注意すること。
8		全てのグループが発表すべきか。	演習全体を通じて、全てのグループが一度は発表するのが望ましいが、参加者数によりグループ数が多い場合は難しい場合もある。
9	演習補助者について	演習補助者が2人の場合の組み合わせと役割分担はなにか。	初めて演習補助者を行う場合は特に、数回、演習補助を経験している演習補助者と組み合わせ配置するのが望ましい。また、受講者も含めたグループの職種や業種のバランスも含めて決めること。 なお、メインが「進行」、サブが「記録、やタイムキープ、そして受講者が奇数の時にペアに疑似受講者として貼る」等、役割を分担すること。
10		演習補助者の記録の目的はなにか。	記録の目的は、耳から入った情報を整理し、目でも確認することにより、考えが整理されるようにすること。
11		演習補助者が欠席した場合はどうしたら良いか。	事前に誰がどのようにカバーするのかを検討しておくこと。
12		演習補助者の事前打合せについて(当日より前)	開催の3-4週間前に実施する日歯関係者との事前打合せは、運営上の問題点や演習の流れの疑問点等を確認する程度であるため、別途、オンラインもしくは参集で、打合せをする場合もある。それぞれのグループを担当する演習補助者同士で、事前にどのような演習をするか、相談すること。
13		演習補助者の打合せについて(当日朝・昼食時)	当日朝の打合せは、資料確認が中心となる。昼食時の打合せの必要性については、講師に確認すること。
14		演習補助者の振り返りについて(終了後)	講師・演習補助者を中心として、運営主体側と概ね30-60分程度の振り返りを行うことが望ましい。 基本的に講師・演習補助者での振り返りだが、継続して携わる関係者には参加していただくと良い。振り返りでは、演習補助者から「演習ごとに、スムーズに進行できたか、問題点はなかったか、受講者の理解度はどうだったか」等を発言し、全体の改善点や課題について話し合うこと。なお、「演習自体の振り返り」の進行は講師がすること。 当日の振り返りに出席できない人がいる場合は、メールなどで意見をいただいても差し支えない。なお、振り返りを行う場合、後日意見をまとめて、メールなどで演習に関係した全員に共有すること。

質問番号	内容	質問	回答
15	演習補助の方法について	演習2と演習4との、2人組のペアで実施する記載実習では、机にどのようにペアを配置するのか。	受講者のペアは、演習補助者のいるスクリーン側を除く机の3辺に配置すること。受講者が5-6人で、3ペアを作る場合は、左、後ろ、右の3辺に1ペアずつ配置、受講者が7-8人で、4ペアを作る場合には、左の辺で2人、左後の角で2人、右後の角で2人、右の辺で2人の4か所で配置すること。
16		演習2と演習4との、2人組のペアで実施する記載実習において、グループごとに受講者数が違うが、どのように考えたら良いか。	受講者が7-8人の時にはお題を4題使用。受講者が5-6人の時には3題を使用し、残りの1題は演習補助者が記載することとして、計4題で進行する。当日、何らかの事情で参加者が減った場合は、演習補助者が受講者とペアになって、模擬受講者となって記載実習を行うようにすること。 ただし、歯科以外の他職種においては、例えば歯科職種とあわせて3人のチームとして記載をしていただく等、人数や職種のバランスを考慮し検討すること。これらを踏まえ、座席表をあらかじめ指定しておくとうい。
17		演習2と演習4とは、同じように進行すれば良いか。	演習2のペアでの記載実習は、2人で1枚の紙の資料を見ながら記載する。演習4ではLINEのやり取りような紙が配られ、これを被災者役と支援者役で交互に読みながら、書き込んでいくように設定されている。演習補助者が、最初から交互に読み進めつつ記載をしていく演習であることを、受講者に理解していただけるよう、進行すること。
18		演習3と演習4後半とでの、全体の把握をするための共有は、どのように進めれば良いか。	演習補助者が関わったお題がある場合、最初に演習補助者から発表・共有をすると、その後の受講者からの発表・共有がスムーズになる。例示するお題が無い場合は、演習補助者から受講者へ質問しながら進めると良い。
19		演習3と演習4後半とで、一覧表のようにまとめることとなっているが、各ペアから付箋に課題を記載させて貼り付けて良いか。	演習3および演習4は意見交換を目的としており、効率的に一覧表を作ることが目的ではないため、付箋は使わないこと。付箋は演習補助者が手元で記載したものを、卓上の表に貼るために使うこと。
20		演習3と演習4後半とでの、全体の把握をするための共有やその後の意見交換は、参考例に記載の情報を元として実施するのか。	あくまでも受講者が書いたものを元に共有や意見交換をすること。
21		演習補助者が1人の場合、受講者に記録係を頼んで良いか。	受講者に記録はお願いしないこと。演習補助者1人でグループの対応をする場合、記録はしなくても構わない。
22	グループ編成	グループ編成で考慮すべきことがあれば教えてほしい。	各グループ5~6名とし、職種に偏りなく編成することが望ましい。また、いくつかの演習は2名1組となるが、同一職種以外で組むことが望ましい。
23		グループの受講者の職種に偏りがある場合どうしたら良いか。	グループで多様な意見を交換することが目的であるため、可能な限り多様な職種や業種(診療所、病院、自治体等)の受講者でグループを組んだ方が良い。
24	演習素材の取り扱い	当日、机上配布した資料はどのようにすれば良いか。	ワークシートなどは記録として保存し、その他のものは報告書の作成などが終了したら全て廃棄すること。
25		演習素材の二次利用をしたい。	演習素材(動画及び資料等全て)については、日本歯科医師会に氏名を申請した、当該研修会の直接の関係者での共有のみを許可し、それ以外への共有は厳禁とする。また、資料の全ては、一部のみであっても、共有・転送・転載・拡散の一切を禁止する。規定違反が認められた場合は、修了認定しない。研修会を別途開催する場合は、あらかじめ日本歯科医師会に開催申請し、最新の演習素材等を取り寄せること。

質問 番号	内容	質問	回答
26	資料について	なぜ資料を持ち帰り禁止としているのか。写真は撮って差し支えないか。	演習は全国で実施しており、災害対応の演習の特徴は、「①事前に想定を知らせない、②時間に追われる設定とする」ことであるため、資料の持ち帰りは禁止し、流通させないこと。 また、講師・演習補助者には事前準備のため全ての資料を見ていただいているが、それらも共有は禁止し、終了後には破棄すること。 ただし、自分の学びのメモとする、または、自分なりに参考にして似たようなものを作り、研修会をしたいという場合には、写真を撮っても差し支えない。その場合も、写真の共有や、歯科医師会の参加報告等への掲載は禁止する。
27		事後配布資料は、【演習1】と【演習3】があるが、どのように渡すのか。	事後配布資料【演習1】【演習3】は、まとめてひとつのファイルにしてあるので、そのまま印刷し、両方まとめて一束の資料としてホチキス止めすること。【演習1】の時には説明のみで配布せず、【演習3】の事後説明の際に講師から演習補助者に配布するように指示を出すこととしている。 各グループの演習補助者が配布するため、当日朝の打合せの際に、各グループの人数分(受講者+演習補助者)を、グループごとにテーブルにまとめて置いておくこと。
28	その他	受講者の多様性についてはどのように考えるべきか。	歯科医師会、歯科衛生士会、歯科技工士会、大学や病院、自治体、商工協会等、幅広く受講いただけると良い。